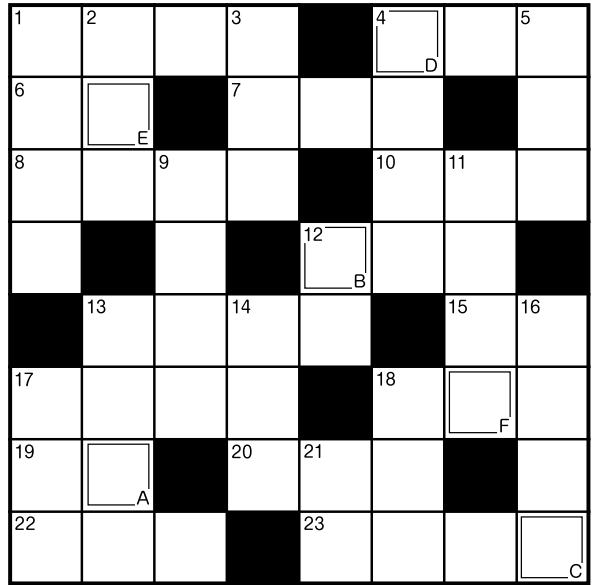


(2026年4月)

## ヨコのヒント

- 〇〇〇〇秀吉は、身分の低い立場から出世し、織田信長の死後に、全国統一を進めた武将です。
- 動物が、自分の体の色や形をほかのものに似せて身を守ること。
- 優れた人、目立つ人は、ねたまれるもの。「出る〇〇は打たれる」といいます。「くぎ」ではありませんよ。
- どこまでも限りがないこと。果てしないこと。
- 地面や山をつくっている、硬い石のかたまり。
- 花は一般的に、中心から外側に向かって、めしべ、おしべ、〇〇〇(花びら)、がく、という順で付いています。
- 進んでいく方向。前途。将来。「〇〇〇には困難が待ち受けている」などと使います。
- 1年間に降る雨の量より、蒸発する水の量のほうが多い気候帯を〇〇〇〇帯といっています。
- 極〇、〇〇、〇勝、〇観。〇に共通して入る漢字の読みは？
- 亡くなった人をしのび、その死を悲しむこと。
- 宮沢〇〇〇は大正・昭和時代の詩人・作家。『銀河鉄道の夜』『風の又三郎』などの作品で知られます。
- 〇〇のつぶて。「便りをして、相手から返事がない」ことを表すことばです。
- 古くはペルシャと呼ばれた中東の国〇〇〇。首都はテヘランです。
- 〇〇〇抵抗とは電流がどれくらい流れにくいかを表す量の単位。単位はオーム(Ω)です。
- 学問や落語、踊りなどの芸事を教える立場の人。反対語は「弟子」です。



## 【答え】

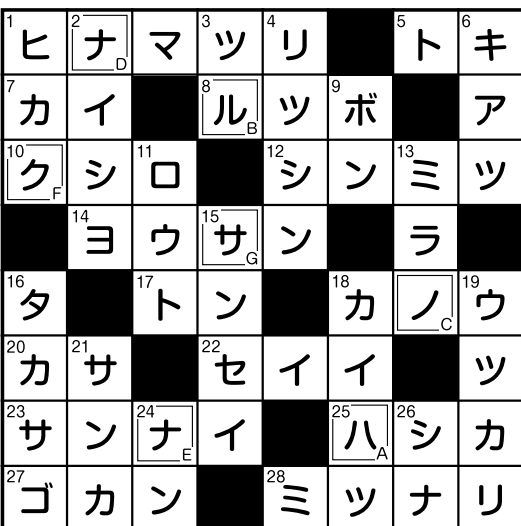
A	B	C	D	E	F

- タテのヒント**
- 関ヶ原の戦いに勝って政治の実権を握り、1603年に征夷大将軍となり、江戸に幕府を開いた〇〇〇〇家康。
  - 何かが終わった後に残る味わいや雰囲気。「祭りの〇〇〇〇がまだ残る」などと使います。
  - 「〇〇〇せじな」とは、まったく関心を示さないう意味。「興味がないことには〇〇〇〇せじな」などと使います。
  - 足利義政が京都・東山に造営した別荘は義政の死後、寺になり慈照寺〇〇〇〇といわれました。
  - 〇〇伝心は、ことばにしなくとも、考えや気持ちがお互いに通じる、という意味の四字熟語です。
  - 建築の材料などに使う〇〇〇〇〇〇。石灰石と粘土を混ぜて焼き、粉にしたものです。長年の経験があり、仕事や作業に慣れている人のこと。英語由来のことばで〇〇〇〇といわれます。
  - 〇名、〇利、所〇、特〇。〇に共通して入る漢字の読みは？
  - 645年、中大兄皇子・中臣鎌足らが、蘇我氏を倒して始めた政治改革を「大化の〇〇〇〇」といいます。
  - みんなの考え。全体の意見。「出席者の〇〇〇〇によって決める」などと使います。苦しみ悩むこと。そのさま。「〇〇〇〇〇〇の選択」などと使います。
  - 「世の中は常にもがもななきを漕ぐ、あまの小舟の〇〇〇〇かなしも」(鎌倉右大臣)
  - 哺乳類の歯のうち、門歯の隣にあり、とがった形をした歯。
  - 種子植物のうち、種のもとになる胚珠が子房に包まれます。むき出しになっている〇〇〇植物。

## 前月号の解答と解説

### 【答え】

A	B	C	D	E	F	G
ハ	ル	ノ	ナ	ナ	ク	サ



## ★春の七草

春の七草とは、寒さの残る早春の野山に生える、食用になる7種類の草のこと。日本では古くから1月7日を「人日の節句」とし、一年を無病息災で過ごせるように願って、この日に7種類の野草を入れたおかゆ「七草粥」を食べる習慣がありました。お正月の間にごちそうをたくさん食べて疲れた胃や腸を休ませるという意味も込められているといわれています。

七草粥に用いられるのは、セリ、ナズナ(べんべん草)、ゴギョウ(母子草)、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ(カブ)、スズシロ(ダイコン)の7種。すべてを覚えるのは大変ですが、短歌のように五・七・五のリズムに乗って、「セリ・ナズナ、ゴギョウ・ハコベラ、ホトケノザ、スズナ・スズシロ、これぞ七草」と唱えると、覚えやすいです。

ちなみに、夏や冬の七草はありませんが、秋の七草があります。これは「貧窮問答歌」でも知られる山上憶良が詠んだ「萩の花 尾花 葛花 なでしこの花 をみなへし また藤袴 朝顔の花」という歌に詠み込まれています。なお、最後の朝顔は、キキョウを指すと考えられています。

### ヨコ

- ひなまつり
- 時(とき)
- 快(かい)
- るつぼ
- 釧路(くしろ)
- 親密(しんみつ)
- 養蚕(ようさん)
- トン
- 狩野(かのう)
- かさ
- 征夷(せいい)
- 三内(さんない)
- はしか
- 五感(ごかん)
- 三成(みつなり)

### タテ

- 非核(ひかく)
- 内緒(ないしょ)
- 鶴(つる)
- りっしん
- 気圧(きあつ)
- 盆(ぼん)
- ろうと
- ミラノ
- 参政(さんせい)
- 高砂(たかさご)
- 開発(かいはつ)
- うっかり
- 酸化(さんか)
- 難(なん)
- 品(しな)